

人文科学研究所第3回公開講演会

「21世紀アメリカ映画徹底解剖」

人文科学研究所(伊吹克己所長)の第3回公開講演会「21世紀アメリカ映画徹底解剖」が11月16日、生田キャンパスで開かれ、文学部の末廣幹、中垣恒太郎の両教授がそれぞれ講演した。



末廣教授「黄金期の作品へのオマージュ」

「承前啓後の21世紀アメリカ映画」と題して講演した末廣教授は、21世紀のアメリカ映画について「過去の映画のオマージュが多くみられる」と説明。日本でも大ヒットしたミュージカル映画『ラ・ランド』(2016年)を挙げ「アメリカのミュージカル映画は終焉を迎えていた」と指摘。

中垣教授「マイノリティーの抑圧に焦点」

中垣教授は「トランプ現象とアメリカ映画の想像力」と題し、「シェイプ・オブ・ウォーター」(2017年)と『グリーンブック』(2018年)の2作を題材に挙げた。ともに黒人差別が続く冷戦期の1962年の設定。前者は発話障害を持つ孤独な清掃員の女性と「半魚人」との

英語による経済学講座

S・リム教授

講演から質疑応答まで全て英語で展開する第173回国際交流特別講演「やさしい英語による経済学講座」(全5回)が、11月9日から12月7日まで生田キャンパスで開催された。



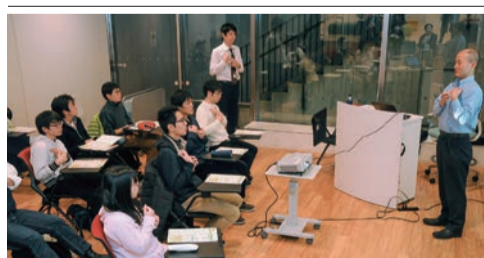
リム教授は2001年から来日しほぼ毎年、講演会を開いている。「経済学を分かりやすい英語で解説してくれる」と参加者の人気が高い。また、経済学部の

授業も担当しており、特殊講義の「経済・社会生活の経済学」「アジアの経済」などを学生たちに講義している。

イライラ・不安解消法を学ぶ

健康講座

健康講座が11月26日、生田キャンパス5号館アクトシアターで開かれ、イライラや不安を解消するリラクゼーション法について、実践を交えて紹介された。



講師は神田保健室校医の平田俊明さん。体や手のツボを軽くたたいたツボ法と、呼吸に意識を集中する呼吸法を組み合わせた「つぼトントン」を実践し写真。正式には「思考療法(TFT)」といい、鍼のツボをタッピングすることで心理的問題の症状を改善する。鎖骨の下に指2本を当て、反対の手でツボをトントンしながら深呼吸する呼吸法では「呼吸に集中するだけでリラックスモードになる。寝つきが悪いときに行くと落ち着いて眠ることができる」と語った。

付属3高が「白熱の審理」

高大連携



専修大学付属高校、専修大学松戸高校、専修大学北上高校の生徒67人が参加した公開模擬裁判(エクステンションセンター)主催、専修大学法学部大学院共催、東京弁護士会協力)が11月2日、生田キャンパスの法廷教室で開かれた。

人役を付属高と松戸高の生徒が、北上高の生徒が刑務官、延更役を担当し、それぞれ本職の弁護士から指導を受けつつ、傷害致死事件の審理を行った。白熱した審理の結果、裁判官の判決、裁判員(傍聴した生徒)の判断はいずれも無罪。この結果を受け、弁護士が今回の争点などを解説した。

安全教育の現状学ぶ

教育学会67回大会

中小高校の教員をはじめ、安全文化と復元力の醸成をテーマに講演した。専修大学教育学部(会長 佐々木重人学長)の第67回大会が11月24日、生田キャンパスで開催された。会員や、教職課程を履修する学生ら約300人が出席し、教育現場のリスクマネジメントをテーマとした講演会と、キャリア教育に関する研究会が行われた。リスクマネジメントを専門とする上田和勇商学部教授が「学校における



で行われている安全教育の現状と課題をオーストラリアや英国と比較して解説した。また、「リスクの防止、損害の最小化とともに、生活環境や精神を日常的に戻す復元力が重要」と話し、リスクに強い職場を作るための考え方としてFlow理論を紹介した。

研究会では、高大産連携で杉並区の沖繩タウン活性化に取り組んでいる専大リーダーシップ開発プログラムと専大付属高校キャリアデザイン講座の受講生、一般社団法人machitowaがキャリア教育の実践として活動を報告した。

日本を離れる



この夏、ロシアのクラスノヤルスクでの研究会に参加した。「クラスノヤルスクってどこにあるの?」と思う人は多いだろう。シベリアの中部にあり、1997年には日露平和条約締結を目指す「クラスノヤルスク合意」が交わされたことでも知られているが、専修大学においては、今年3月に第29回ユニバーシアード冬季大会が開催された都市と言った方が、分かりやすいかもしれない。そう、そのユニバで本学の学生が金メダルを獲得したことは、素晴らしいことだ。本田電広(学生部委員)が、素晴らしをいせると、良い点も悪い点も浮かぶが、日本について知らないことも多いと気付く。過日、ラグビーワールドカップが日本で開催され、盛況のうちに南アフリカの優勝で幕を閉じた。海外から多くの人が来日し、文化交流も楽しんだ。「海外交流」といえば、専修大学には、海外交流への奨励制度があります。海外での調査・交流を企画して、渡航を決めたら、この制度を利用するのも一手。百聞は一見に如かず。日本から一歩飛び出しては如何かな!